

## 平成20年度事業計画

### (1) 火薬類に関する調査研究

- ①**爆発安全専門部会**は、爆発、高速燃焼及び衝撃に関わる現象並びに高エネルギー物質の感度及び威力の評価に関連する事項のほか、安全工学的な観点も視野に入れて取り組む。当面、国際規格の導入を考慮した火薬学会規格(試験方法)の改訂を目指す。部会は2ヶ月おきに開催し、年2回程度の見学会及び他の専門部会と共催した講演会や研究会の開催を行う。
- ②**発破専門部会**は、年5、6回の部会を開催し、ほぼ毎回講演会を持つ。今年度は最近、資源問題が見直されていることに鑑み、資源と発破について検討を加える。また、歴史的な発破工事を行った現場を見学する予定である。今年度は日中韓火薬・発破技術に関する国際会議は韓国で開催予定であるため、それに向けて我が国の発破に関する現状を調査するとともに、韓国・中国での発破技術の最近の動きについて精査する。国際FRAGBLAST会議で発破のハンドブックや辞書の発行を計画しているので、それらにも協力し、発破技術のさらなる国際化の発展に努める。
- ③**プロペラント専門部会**は、研究会(プロペラントに関する燃焼、熱分解、安定性およびシステム化、パイロラントをはじめとする高エネルギー物質などについて)を5回程度行い、他専門部会との共同研究会も行う。見学会は2回程度開催する。特に研究会においては内外の研究者を招いて最近の技術動向および問題点などの検討を行う計画である。  
サブ研究会「宇宙産業技術研究会」は別途、年3回程度開催し、宇宙産業における火薬類の新たな応用技術について検討する。
- ④**火工品専門部会**は、火工品の基礎化学、性能及び危険性に関する講演会を2～3回、内外の火薬類や火工品に関する情報交換を目的とした研究会を1～2回行う。特に、より安全な点火薬や煙火組成物などに関する資料を収集し、その開発のための方向性を探る。
- ⑤**煙火専門部会**は、煙火にかかわる学会員と一緒に活動する。煙火製造や消費等の安全化と環境対応に必要な科学知識の確認、事故情報の交換、関連分野の専門家による講演、伝統花火技術の検討を中心に活動する。部会4回、講演会3回、見学会1回を予定している。
- ⑥**爆発物探知専門部会**は、爆発物探知に関する開発、技術、運用等や、委員が必要とする共通な問題点について協議、検討及び情報交換を行うと共に、講演会、見学会、探知セミナーの開催を計画する。部会としての運営はできるだけ電子メールによって行う。
- ⑦**ガスデトネーション専門部会**は、従来当学会の中心課題ではなかった気体のデトネーションの問題、例えば燃料電池用の水素ガスもれによる着火、爆発現象等を研究範囲にする。本部会の運営は主として電子メールとホームページを通して行ない、完成したデータベースはホームページにおいて全火薬学会会員にオープンにする予定である。春季及び秋季の研究発表会には、積極的に参加する。また、新しい試みとして、外部資金の獲得にも取り組みたい。さらに、本学会の国際化を進めるため、国際的な会議や講演会を積極的に誘致するよう検討する。
- ⑧**爆発衝撃加工専門部会**は、主として爆発衝撃加工関連の企業及び大学から火薬学会会員の増強をはかるとともに、独自の研究会・見学会の開催や各種の学術講演会活動を積極的に支援する。本年度は特に、爆発衝撃加工に関係の深い国際ワークショップ(ESHP Workshop 2008)を共催支援する予定である。
- ⑨**自動車用安全部品専門部会**は、自動車用安全部品に関する世界の情報を共有化するとともに、

新たな製品開発の方向性を予測し、次々世代の自動車安全部品の開発とそれに向けた産官学の連携の橋渡しを行う。年4回程度の部会を開催し、講演会、見学会、ニュースレターの発行等も積極的に行う。

- ⑩**編集委員会**は、論文誌「Science and Technology of Energetic Materials」及び会誌「Explosion」発行のため、年6回の委員会を開催する。又、論文誌については、企画委員会と連携し、本年2月に電子媒体で発行を始めたがこれらの改善を図る。
- ⑪**国際委員会**は、各国の研究者及び研究機関との研究交流を推進するとともに学会の国際化を推進する。昨年同様、IGUSの本会議、EOS、EPPの作業部会の情報を翻訳し火薬学会のホームページに掲載する。又、ISEM2008を開催する。
- ⑫**企画委員会**は、火薬学の周辺領域との連携を深め、学会の発展を図り、学会の国際化を推進する。火薬学セミナーのテーマ、又はその進め方等を検討する。また、将来構想、事務合理化等について検討する。

**広報小委員会**では、広報活動及び編集委員会との連携によるオンラインジャーナルをはじめとするインターネットを利用した会員への各種サービスの充実化を図る。火薬学会のホームページの充実、論文誌のオンライン閲覧のフォローアップ、各専門部会のホームページ活用支援、投稿システム及び会員登録システムの安定稼働を推進する。ホームページ上のバナーによる広告利用も検討する。

(2)火薬類に関する研究発表会、火薬研究会、基礎火薬学セミナーの開催

- ①**春季研究発表会**を東京都江戸川区総合区民ホールにおいて4月23日～24日に開催する。
- ②**ISEM2008**を東京都江戸川区総合区民ホールにおいて4月24日～25日に開催する。
- ③**秋季研究発表会**は10月に開催する予定である。九州以外の地方会場も検討する。
- ④公開研究会、講演会、基礎火薬学セミナー、ステップアップシンポジウムを開催する。開催テーマ、開催日時、開催場所等は決定次第ホームページ等を通じて案内する。
- ⑤その他、安全工学シンポジウム、衝撃波シンポジウム、燃焼シンポジウム、高圧討論会、火薬類の製造と保安の講習会、テロ対策探知技術セミナー等に共催者又は後援者として参加する。
- ⑥エネルギー物質ハンドブックの改訂版を発行するためその準備委員会を立ち上げる。

(3)火薬学会賞の授与

- ①学術賞、論文賞、技術賞及び奨励賞を審査し、授与する。

(4)学会運営

第67回通常総会、第67回評議員会、理事会(年3回)、運営委員会(年6回)を開催する。